

# Marunouchi Street Park 2020

～都心部のグリーンインフラのあり方提案に向けたエリアとしての取組～

withコロナ時代に屋外の快適性を再発見するためのコンセプト  
**そうだ！ストリートに出よう!!**

丸の内ストリートパーク2020  
2020年7月27日(月)から9月6日(日)  
11時～21時 ※24時間車両交通規制実施  
場所: 東京都千代田区 丸の内仲通り(千代田区道)

屋外の快適性を発信するWebサービスの開発と運用

**Block 2 Cozy Green Park** 心地よい緑の空間づくり

- 天然芝を敷設した公園空間
- 路面飲食店舗の道路空間利用(屋外公席)

**Urban Terrace+** Block 1

車道と歩道がより一体的に使われる空間づくり

- 一定の距離を保つファミチャアの配置
- 民地外構と道路空間の連携

**Open Air Office** Block 3

屋外で働ける空間づくり

- WiFiを整備し、電源を各テーブルに設置
- 屋外エアコンを配置

## 地域課題・目的

人材や投資を呼び込むこれからの都市空間とは?

**課題** 高密度に集積した都心部に更なる人材や投資を呼び込む手法として、緑の多機能性を発揮させた空間や仕組みの持つ可能性は高いが、その具体的な手法や効果についての知見はまだ乏しい。

**目的** 官民学のエリアマネジメントの成果である「道路空間活用のノウハウ」と「緑の価値を日常体験できるITツールの開発」を結集することで、多様な主体が連携したwithコロナ時代の緑の多機能性を検証し、都心部のグリーンインフラの新しいあり方を提案する。

## 取組の位置

日本の業務中枢地区の道路空間を活用



## 取組内容

屋外空間の新しいあり方提案と効果検証

**withコロナ時代の空間活用:** 丸の内仲通りの区道部3ブロックを歩行者に24時間開放。天然芝の敷設、飲食店舗の屋外公席の増設、WiFiと電源の整備等により、「食事する」「働く」といった日常行為を屋外空間で快適に実現。

**環境データを活用した情報発信:** 現在地から屋外の快適空間(OASIS SPOT)までの日陰ルートを自動計算して案内するWEBサービス「TOKYO OASIS\*1」を同時にリリース。これにより人々を丸の内ストリートパークをはじめとする都市のオープンスペース等へ誘導。

\*1官民学が連携し広く東京の都市環境の質的改善を目指す活動するGreen Tokyo研究会が開発し、大丸有地区で実証実験。

11台の3D人流センサー・温湿度センサー・小型全球熱画像システム等とアンケート調査により、人の移動と滞留状況、温熱環境、来訪者の満足度、店舗の売上高への影響などを検証。

## 取組の工夫

緑を核にした多様な主体の連携

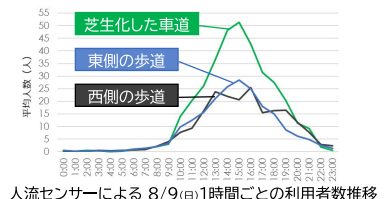


## 取組効果

都心部の緑の多機能性を4つの視点から検証し確認

### 1. 緑が人を惹き付ける機能

芝生化した車道の方が、歩道に比べてよりゆっくりと、多くの人が滞在していたことが判明。



### 3. 緑が周辺経済を活性化させる機能

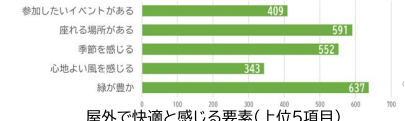
Block2で屋外公席を拡大した飲食店舗では、取組前の前月に比べて売上が増加した。

前月比 店舗A: 売上224% 店舗B: 売上119% 屋外公席の様子

- 緑の持つ多機能性は、都心の快適性の向上に大きく寄与していることが確認された。これはwithコロナ時代の都市生活においてますます重要となる機能と考えられる。
- 「緑の多機能性実現に向けた多数の主体参加による都市の快適性向上という活動」を、都心部におけるグリーンインフラの新しいあり方と捉えることにより、同様の課題を持つ他地域にも展開することが可能になると考えられる。

### 2. 緑が都市生活を改善する機能

丸の内仲通りの恒常的な屋外広場空間化に90%が賛成、道路への屋外店舗客席の拡大に93%が賛成と回答。(来訪者アンケートによる) 外出の際に快適と考える要素は「緑が豊か」「座れる場所がある」「季節を感じる」という声が多い。(TOKYO OASIS利用者アンケートによる) 緑を生かした都市の屋外空間への期待が高いことが判明。



### 4. 緑が酷暑を改善する機能

芝生化部分の地表面温度は、舗装部分に比べて大幅に低下していた。

